

徳川吉宗の植樹政策

—桜の名所「飛鳥山」の誕生—



EAJRSくずし字ワークショップ
古文書テキスト

王子村・滝野川村

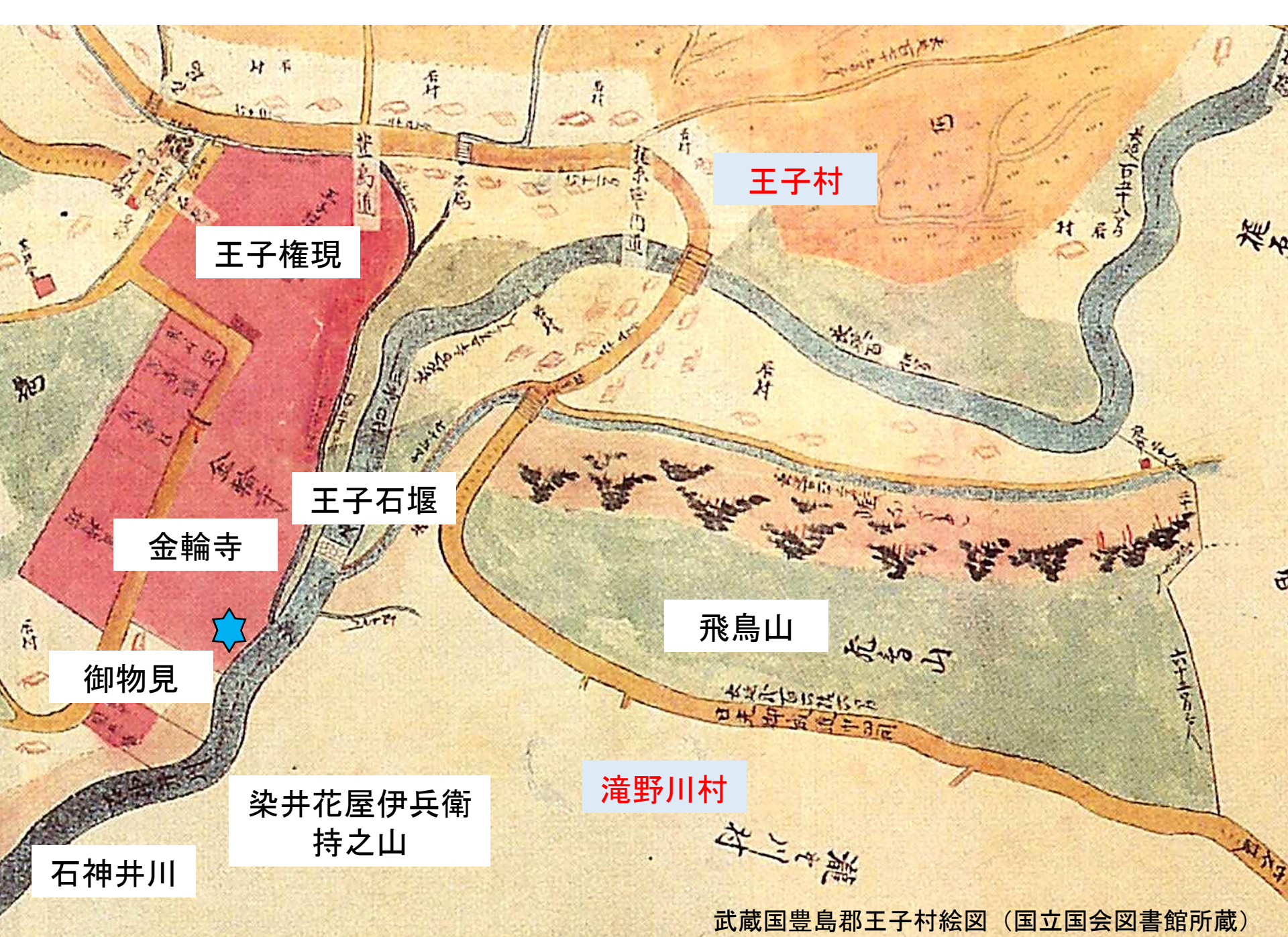
金輪寺

飛鳥山

江戸城

飛鳥山は、江戸の北部郊外に位置する武蔵国豊島郡王子村・滝野川村（現在の東京都北区）にある。





王子村

王子権現

王子石堰

金輪寺

御物見

石神井川

染井花屋伊兵衛
持之山

飛鳥山

滝野川村

武蔵国豊島郡王子村絵図 (国立国会図書館所蔵)

王子・飛鳥山公園map



飛鳥山公園はその名の通り、小高い丘の上にある公園。標高は25.4mで、公園からは高崎線、宇都宮線、東北・北陸新幹線などが行き交う様を眺めることができる。また、桜の名所として広く名が知られているが、ツツジや紫陽花も多く、初夏も楽しめる。

17階に展望ロビーを持つ高層ビル。

王子という地目の由来になっている王子神社。8月上旬に行われる例大祭では、日本の伝統芸能である田楽舞が奉納され、人気を集めている。

名所江戸百景にも出てくる滝。正受院境内から石神井川へ落ちていたと云うが、その後の治水工事で影はない。

石神井川は東京小平市から始まり、隅田川へ合流する河川。川沿いには桜が植えられ、それぞれの市区で名所になっている。

醸造方法や清酒の品質改良を目的とした国の研究施設の跡。外観のみ見学できる。

渋沢栄一の提唱により、日本で初めての近代的な製紙工場が、ここ王子に設立された。その歴史がよくわかる。

日本資本主義の父と称された渋沢栄一の生涯や、行った事業をわかりやすく紹介する史料館。渋沢の邸宅跡に建てられている。



お札製作の技術や歴史、これまでに製作した製品などを展示している。

中央公園

石神井川

音無もみじ緑地

金剛寺

四本木稻荷神社



資料 1

有徳院殿御実紀附録 卷十六

(国立公文書館所蔵)



一九世紀に編纂された幕府の公式史書で全五一七巻。歴代將軍ごとに事跡が記されておられ、末尾に附録が付く。「有徳院殿」は八代將軍徳川吉宗の法名。

此の巻は榎楓の苗多く養生したる
 所ありて小納戸松下孝助高恒後伊賀守に
 在りて其の事と合せしむるに別々
 花欄と役所と忍日所とくひ水と多
 くとあくとくそ苗と云ふとあり
 廣尾隅田川の前より海に花鳥と
 ありて其の中を花鳥と云ふは
 九月より桂とありて凡そ榎
 二百七十株あり

松百本植すまに梅のつとま年と過て
枝葉志あり花の時に燦爛とて多美觀と
あせりそ地は山平人のあひかゝる景色あり
一と卯より川さ道元文二年二月十日止
王子檀理の祠傳令輪寺宿請日たよりて
永く社殿は附きふちと地祠の紀伊國熊
野檀理といはるる也

公津彦祥の地の精舎とてやくざりて
そをいふと成りかゝる免れ道かゝる
あふとてそはすむらうなる事ハ成爲道能信遍
日作せく山とてたてし碑文あり
記より地碑石をいふと熊野山の石とて
吹上れ清意とてか新しをあらひるは
地神の傳とて信遍は清とてあはれ又山
の麓は龍堂川とてふあり左右の岸より
棟葉とあふた松山上より梅は交つて松紋十

株より一めらり西の田はうめと菜と柿と
 萩とめら萩と一橋の庄より木留より内
 所と六菜の庄より山とまるといふやうに
 寺と寺景色いふに方より一寺も一府内通
 せり
 一後日高保の寺とあまの寺と毎春西の村に
 一寺にまうり控興と一寺といふと打まうり酒とみ
 庭よりかきとくりにて
 祖廟通とせりめと申すや根とある巻節ありと
 寺よりあはは府内を控衆れたと一寺とありとて
 とをえり一は徳人をまうりまうりはといふあり
 寛永の

あがまゝに地をまゝ
 木のまゝにありとあり

資料2

御場一件 坤 (国立公文書館所蔵)



將軍の外出先にある施設の来歴・整備などについて書き留めた記録。寛政年間（一七八九〜一八〇一）の成立。作成者は幕府の代官または將軍側近の御小納戸と推定される。

飛騨守之丞

一喜保五郎年九月梅苗木吹上るる旨令論

寺内札息向深井花屋伊左衛門持之山

同月廿八日極初九日返極

一 櫻苗木或百七拾本

但赤芽櫻若干本

右樹

若林平茂

坂尾源左衛門

水庭樹

次友宗庭

伊奈半左衛門茂木

野次右衛門

一月六廿年三月十八日右様植

一 紅葉百本

一 杉百本

水庭樹

次友宗庭

伊奈半左衛門茂木

早野又玄清

一月廿年七月廿六日飛鳥正新田主介榎上右

田長滝野川村名之吟味右樹 伊奈半左衛門茂木

三浦安右衛門吟味書汝信書書月信右松下

寺中坂下源左衛門村系

一同奉九月濃建川系堰上古田郡多志植

一 橘苗木二百五十本

吹上下段

福崎市在東

伏見在東

植本至

長幼系代

茂美清

同十二。

一 橘苗木二百本

同十二言十字。

一 橘苗木二百五十本

右小疎苗木根之各三寸禰宛伐植

子丑為年

款合橘木或百本植

右橘植仕只依松下寺外場不見分同月

女日取紙植了百又百禰宛又自植杏植

常少の元為原仁左衛門種之七根より後
仁左衛門戸右橋根祀之七根板源定
川村源光源之忠也 御旨也

一 御用木橋枝打之へ之七言之七七志建

一 山之内下中是柱月之根也 御旨也

住員人
源光川村

源之忠

四十
一 御用木
四十

一 御用木
仁左衛門

掛
西原十郎在焉

坂尾源在焉

多田友在焉

伊奈半左衛門在焉
早野又玄清

一 同七寅年二月九日次友宗庭系合輪也

山角より長八九尺、紅葉松不見出
深井仔玄清村之山并堰上畑松多山也
三ヶ石松

一 同十八年二月十七日水菜倉十ヶ石松多山

様之内建之松之松下より少許新地草

約日根水左東方上滝中門村源之松

一 山之上

八割

一 今輪寺清物是向左端二割

信貞人

源水門村

源之松

西ヶ原村

仁左衛門

一 赤松 五本

一 赤松 七株

右地多山 清立場止上松右赤松を西南の方

内見深石松之也 清立場之赤九尺四方所

矢来出来札建 清成之序斗五拂之建

掛

藪田助左衛門

坂尾源左衛門

一元文二己年三月号飛鳥山小用地上書

同方右之辰吉及大守流書月号一在田

八日新子及ゆの伴宗律在東門方

飛鳥山惣坪敷三方六子五百坪

山上五方二子五百坪

内 山下二子五百坪

一同十日大畧紙前書宅令輪与藤王子

檢惣飛鳥山小用地上檢了台由書月

と九石作後辰令輪与坂尾源左衛門

右飛鳥山之野間及助、

一林寺町寺及三畝 中野井村

一畑三町余 嶋ヶ谷村

一同年同上月二日飛鳥山小用地上書

吹上高斗五辻地車与来山上之人是三

百人祇年傳引下

一 同本但右園竹去來蕨繩言結立出耳下

掛

藪田助左馬

成徳道筑

坂尾源左衛門

一 同日未年三月甲子飛鳥山石碑矣耳五排

一 板七段土字後丁未刻今輪子丁未五排

有徳院標

一 寛保元年四月十八日王子命 沛延氣

沛成子宗飛鳥山 出幕張出東奥向信

一 吹上車釣收野熟于郎坊之流系川云信

阿蘭陀人也仕立也供有也 也酒下也終

手是給也 一杯是 杯是也 也身是燒也美

也河法引也 山卡多為 成幕也 也西視

多能 沛第地也 山沛立場也 入

清徳公之妻公卷通不得おる付是通清徳
亦死す原仁平治方と為入清徳相所付
是通 是清熱十郎玄清河東院人
之故之候清徳

一 同二戊年地之山脚立場と為清貞除赤松
或本杜自之 作月同年又之赤松下植
付之 作月同之赤松下之後立植二
お成り青史享元子年杜替之 作月

右後角
瓦原村
杜木倉

控左之

掛
坂尾源左之